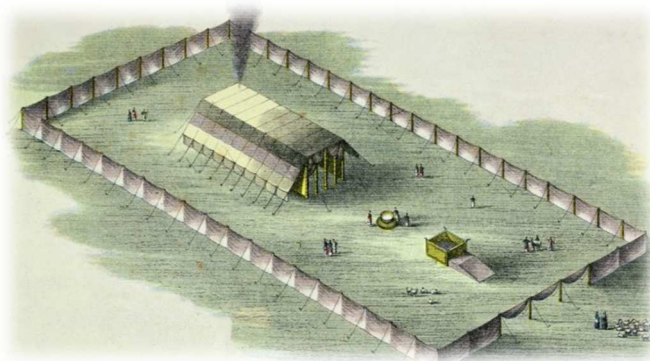


041 幕屋・聖所

仕事、すなわち聖所のあらゆる仕事に用いられた金の総額は、奉納物の金が聖所のシェケルで二十九キカル七百三十シェケル、共同体に登録された者のささげた銀が聖所のシェケルで百キカル千七百七十五シェケルであり、この額は二十歳以上の登録された者の総数、六十万三千五百五十人が一人当たり一ベカ、すなわち聖所のシェケルで半シェケルをささげたものに当たる。銀百キカルは聖所と垂れ幕の台座を鑄造するために使われ、台座一個につき銀一キカル、百個の台座に銀百キカル



を必要とした。また、銀千七百七十五シェケルは、柱の鉤を作り、柱頭を覆い、また柱を桁でつなぐために使われた。また、奉納物の青銅は七十キカル二千四百シェケルあり、それを使って臨在の幕屋の入り口の台座、青銅の祭壇とその青銅の格子、祭壇のためのすべての祭具、庭の周囲の台座、庭の門の台座、および幕屋と庭の周囲のすべての杭を作った。

(出エジプト 38 : 24~31)

金 : 29 キカル 730 シュケル → 29 × 約 34.2 kg/キカル + 730 × 約 11.4g = 1,000,122g ≒ 1,000 kg

銀 : 100 キカル 775 シュケル ≒ 3,429 kg → 3,500 kg

銅 : 70 キカル 2400 シュケル ≒ 2,422 kg → 2,500 kg

聖所に使用された金銀銅を現在価値(2015年8月)で換算すると、

金 : 1,000,000g × 4,900 円/g ≒ 49 億円

銀 : 3,500,000g × 70 円/g ≒ 2.5 億円

銅 : 2500 kg × 700 円/kg ≒ 175 万円と推定される。

わたしのための聖なる所を彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう。

(出エジプト 25 : 8)

聖所はもともと、神様が人に会われ、そして人と共に住んで下さる所です。神が人と共に住まれ、

そして人に会って下さる。

聖所はいわば神の国の縮図です。

祭壇は、罪びとの身代わりとしての、

キリストの死を表し、洗盤は、

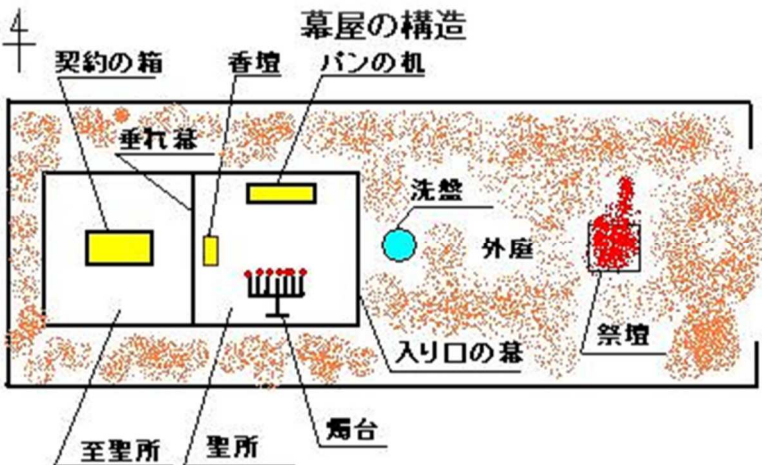
キリストの血による罪からの清めを表す。供えのパンは、

生けるパン、キリスト。燭台は、

世の光キリスト。香は、聖書では

祈りを指し、この場合は、キリストの

とりなしの祈りを指している。



聖所の教えとは、まずパンを食べること、つまり、御言葉を学ぶことです。香をくべること、つまり、祈りをささげることです。そして、光をかかげること、つまり、あかしです。

聖所の務めには、日ごとの奉仕と年ごとの奉仕がある。日毎の儀式は、朝夕に犠牲を捧げることと、罪の許しを受けるために民が犠牲を連れて罪の告白に来るたびに行う儀式とがありました。年毎の儀式は、年に一回贖罪日に大祭司が一年の間に聖所に移され蓄積している民の一年分の罪を除去して清めるために行われました。そのために、その日は、人は日常の働きをやめ、祈り、断食し、心を探る一日として過ごすのです。これが、贖いの日（贖罪の日）である。

贖罪日は「罪」を「贖う」「日」と書き、「贖う」とは「買い戻す」という意味です。すなわち、罪のために失われている人間を、神はもう一度ご自分のものとして救い出すためにキリストの命を支払って下さったことを意味しています。イエスの罪の身代わりとして十字架の死によって、私達が滅びを免れて永遠の命を得る救いの道が備えられたのです。この日、かつては地において民の一年間の罪が消し去られたように、天の聖所において私達の罪の記録の完全な除去のために、イエスの最後の働きが今も継続しているのです。

日ごとの奉仕は聖所の中の第1の部屋（聖所）を中心として行われた。1年を通じて、毎日、悔い改めた罪びとは聖所に供え物を携えてきた。そして、その生贄に手を置いて罪を告白し、こうして象徴的にその罪を自分から無垢の犠牲の上に移してから、その動物を殺した。それから祭司は、その動物の血のいくらかをとって聖所に運び、契約の箱を隠している垂れ幕（室内に垂れ下げて、室内を隔てるのに用いる垂れ布）の前に、血を振り掛けた。これによって、罪びとは、自分が神の律法を犯したことを認め、罰として死に値する者であることを認めた。祭司の働きも、無垢の犠牲も、キリストを指し示している。

聖書暦第7月（ティシュリの月）の10日目にイスラエルの人たちは、審き（裁き）の日に共に連なった。大贖罪の日（ヨム・キプール）に、彼らは聖所の周りに集まり、大祭司が至聖所に入り、主のみ前で彼らの為に嘆願している間、人々は無事に出て来るのか、身を悩まして祈りつつ待ちました。悔い改めた心をもって、この儀式に与る者は、大祭司が彼らの為に執り成しをして、聖所を清める時、その罪の記録が消された。贖罪の日における大祭司の働きは、キリストが、再臨なさる直前の審判において、神のみ前に来られ、なされる働きを予表していた。記録が調べられていく時、キリストは罪を悔い改めた者たちの為に、ご自分が流された血潮をもって嘆願して下さる。それゆえ神は、キリストにあるご自分の民をお受けになり、彼らを罪なき者と見なして下さるのである。

アロンは年に一度、この香をたく祭壇の四隅の角に贖罪の献げ物の血を塗って、罪の贖いの儀式を行う。代々にわたって、年に一度、その所で罪の贖いの儀式を行う。この祭壇は主にとって神聖なものである。

(出エジプト 30:10)

